

ニホンジカ個体群の保護管理における平成25年度の実施計画（案）について

平成24（2012）年度の糞粒調査結果より、緊急対策地区では5.9頭/km²、有効捕獲面積を考慮した地域（緊急対策地区を含む）は4.5頭/km²となり生息密度の低減傾向は見られるものの、森林植生に顕著な回復を確認するに至っていない。

そのため、引き続き個体数調整及び植生保全対策を実施し、目標の達成状況を把握するためモニタリングを実施する。

【実施項目】

① 個体数調整

- ・ 装薬銃、くくりわな、囲いわなを用いた個体数調整の実施（捕獲目標頭数：70頭）
特に、推定生息密度の高い箇所について捕獲個体の搬出方法等を検討しつつ捕獲圧を高める。

② 植生保全対策

- ・ 植生保全対策の測量、施工
 - 区域保全対策（防鹿柵）
 - 単木保護対策（剥皮防止用ネット）

③ 生息環境の整備

- ・ 大台ヶ原・大杉谷周辺地域におけるニホンジカ保護管理に関する関係機関の情報共有と、より広域的な視点での保護管理に向けた取組をすすめることを目的として、「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」を開催する。

④ モニタリング調査（表1）

- ・ 植生状況調査
 - 下層植生調査
- ・ 生息状況調査
 - 糞粒調査
 - ライトセンサス調査
 - GPSテレメトリー調査
 - 繁殖・栄養状態に関する調査

表1 ニホンジカ保護管理に係る調査項目および調査実施年度

1. ニホンジカ保護管理計画に基づく調査地点																		
自然再生推進計画	調査地点数	1期計画					2期計画					調査範囲	調査内容	調査時期	目的			
		欄内	欄外	1期計画	2期計画	3期計画	1期計画	2期計画	3期計画									
①緊急対策地区																		
1-1	植生調査	5	○									○	30m×30m	種別被度・群度 (No.1～3、5、6のみ※シカの影響を受けにくいNo.4、7は外す)	秋季	階層構造と構成種の変化から、被害状況を把握する。		
1-2	毎木調査(剥皮)	3	○									△	30m×30m	剥皮度(5段階)、枯死状況 (▲はV、VI、VII欄外のみ)	9～10月	ニホンジカの剥皮による被害状況を把握する。また、過去の剥皮度の上昇率等と比較することで、ニホンジカ個体数調整の効果を検証する。		
1-3	下層植生調査	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	2m×2m×5 種別被率(%)、最大高 (▲は全体の被率、最大高、優占種、ササの得高) (No.1～3、5、6のみ※シカの影響を受けにくいNo.4、7は外す)	秋季(詳細調査は落葉前)	稚樹を含む低木層及び草本層に対するニホンジカ個体数調整の効果を検証するとともに、被害状況を把握する。		
1-4	ササ得高調査	6												欄外のササの得高		ニホンジカ個体数調整の効果を検証する。		
1-5	糞粒調査	14	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	110コドラート	コドラート内の糞粒数	秋季	ニホンジカの生息数を推定し、ニホンジカ個体数調整の効果を検証するとともに、次年度の捕獲目標頭数を算出する。	
1-6	ライトセンサス			○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	4ルート (東大台2ルート、西大台2ルート)	目視(ルートセンサス)	10月	ニホンジカの生息密度を算出する。	
1-7	区画法			○									●	6区画 (東大台3区画、西大台3区画)	目視、鳴き声	10月	ニホンジカの生息密度を算出する。	
1-8	テレメトリー法(GPS)			○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		行動	年間	ニホンジカの行動圏を、季節による違いを含めて把握し、ニホンジカの生息密度の推定や捕獲手法の参考とする。	
1-9	繁殖・栄養状態に関する調査			○	○	○	○	○	○	○	○	○	●		性、妊娠状況、年齢、食性、栄養状態	ニホンジカ捕獲時に随時	ニホンジカの栄養状態や繁殖率を把握し、個体数調整の効果の検証を行う。また、次年度の捕獲目標頭数の算出の際のパラメータとする。	
②緊急対策地区隣接メッシュ(S1～11)																		
2-1	植生調査	11											○	20m×20m	種別被度・群度 (新しい剥皮の有無についてメモ)	秋季	階層構造と構成種の変化から、被害状況を把握する。	
2-2	糞粒+ササの得高調査	11											○	●	110コドラート	コドラート内の糞粒数、ササの得高	秋季	ニホンジカの生息数を推定し、次年度の捕獲目標頭数を算出する。
③重点監視地区(N7、N9、N10)																		
3-1	毎木調査	3	○										○	20m×20m	剥皮度(5段階)、枯死状況	秋季	剥皮度の上昇率から、被害状況を把握する。	
3-2	植生調査	3	○	○									○		種別被度・群度	秋季	階層構造と構成種の変化から、被害状況を把握する。	
3-3	下層植生調査	3			○	○	○	○	○	○	○	○	▲	2m×2m×5 種別被率(%)、最大高 (▲は全体の被率、最大高、優占種)	秋季(詳細調査は落葉前)	稚樹を含む低木層及び草本層に対する被害状況を把握する。		
3-4	糞粒調査	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	110コドラート	コドラート内の糞粒数	秋季	ニホンジカの生息数を推定し、次年度の捕獲目標頭数を算出する。	
④周辺地区																		
4-1	毎木調査	5	○										○	20m×20m	剥皮度(5段階)、枯死状況	秋季	剥皮度の上昇率から、被害状況を把握する。	
4-2	植生調査	5	○										○	20m×20m	種別被度・群度	秋季	植生の変化から、被害状況を把握する。	
4-3	下層植生調査	5											○	2m×2m×5	種別被率(%)、最大高	秋季(落葉前)	稚樹を含む低木層及び草本層に対する被害状況を把握する。	
4-4	糞粒調査	5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	110コドラート	コドラート内の糞粒数	秋季	ニホンジカの生息数を推定し、ニホンジカ保護管理計画の参考とする。

○、△:調査済み ●:調査予定 ■:詳細調査、▲:項目、地点を限定し実施